

案件概要書

2021年10月26日

1. 基本情報

- (1) 国名：カンボジア王国（以下、「カンボジア」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：コンポンチュナン州及びシェムリアップ州
- (3) 案件名：カンボジア地雷対策センター研修所及びアウトリーチ施設整備計画
(The Project for Improvement of Training Complex of Cambodian Mine Action Centre)
- (4) 事業の要約：本計画は、カンボジア地雷対策センター（Cambodian Mine Action Centre。以下「CMAC」という。）の研修機能を担う地雷対策技術研究所（Technical Institute of Mine Action。以下「TIMA」という。）の施設及びアウトリーチ施設の整備を行い、地雷対策関係者に対する教育訓練環境の改善及び訪問者への地雷問題の理解促進・啓発を図り、もってカンボジア国内外の地雷除去・不発弾対策の推進を通じた持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

カンボジアはメコン地域の中心に位置し、地域の連結性と域内の格差是正の鍵を握る国として重要。我が国は、同国内戦後の和平・復興・開発への貢献や活発な要人往来、国際場裡での協力等を通じ、同国との関係を強化してきた。近年は、二国間の経済関係も緊密化しており、我が国から同国への民間投資が増大。2013年12月には、両国関係が「戦略的パートナーシップ」に格上げされ、地域・国際場裏の課題に関しても一層緊密に連携・協力していくことで一致している。

同国はオタワ条約（対人地雷禁止条約）の締約国として、2025年までに国内の対人地雷の除去を完了する義務を負っており、国家地雷対策戦略では2025年までに対人地雷の除去完了を目標として掲げているほか、地雷対策分野における国際協力としてこれまでに蓄積された地雷・不発弾対策の知見を他国に提供する方針が示されている。CMACはこれまで20年以上にわたり日本政府からの支援を受け、世界有数の地雷対策技術を持つ組織に成長し、TIMAはこれまでに地雷撤去活動に携わる自国の関係者のみならず、コロンビア、ラオス、アンゴラ及びイラクの地雷・不発弾対策関係者を招き技術指導を行ってきた。一方、施設の深刻な老朽化が進んでおり、国内外からの参加者に対して、実地及びオンライン双方にて適切な訓練を提供できる施設・設備が不足している。また、CMACは、国内外の訪問者に対し内戦からの復興・開発の歴史や、地雷問題に対する理解促進・啓発活動を行うためのアウトリーチ施設を有しているが、現状は展示場に資機材が陳列されるにとどまっており、上記の目的を果たすための機能が十分発揮されていない。

そのような中、本年8月にフン・セン首相から三上在カンボジア日本大使に対して本件に関する要請が直接寄せられた。また、2019年5月に来日したフン・セン首相は、安倍総理大臣（当時）との会談において「地雷が存在する限りその土地に住む住

民は被害を受け続けるため、カンボジアとして地雷除去分野での努力を継続していきたい」と述べるなど、地雷除去活動を同国の最優先課題の一つとしており、このような同国の最優先課題である地雷撤去活動に対して支援を行うことは、両国の更なる関係強化に資するなど、外交的意義も大きい。

(2) 当該国における地雷対策セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

当該国における地雷対策セクターの現状・課題については上記(1)のとおり。本計画は、TIMA 施設及びアウトリーチ施設の整備を通じて、他の地雷・不発弾汚染国に対する技術指導を促進し、かつカンボジアの地雷・不発弾対策の歴史・実績を広く国内外に発信することを可能にし、カンボジア政府が掲げる地雷対策分野における国際協力推進、及びこれまでに蓄積された地雷・不発弾対策の知見を他国に提供する方針にも資するものである。技術協力プロジェクト「カンボジア地雷対策センター組織強化プロジェクト」(2020年～2024年)では、2026年以降のCMACによる組織改編をソフト面から支援し、職員の能力向上を図っている。また、ラオスにおいて実施中の技術協力プロジェクト「貧困削減に資するUXO Laoの実施能力強化プロジェクト」(2019年～2024年)、コロンビアが参加する第三国研修「地雷対策」(2017～2023年)では、CMACを中心として南南協力を展開中である。本計画は、これらの事業をハード面から支えるものとして相乗効果が期待でき、CMACが、カンボジア国内の地雷除去や他の地雷・不発弾汚染国への南南協力における確固たる地位を築くための重要なステップの一つと位置付けられる。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容

【施設】TIMA (コンポンチュナン州：研修施設、研修員用の宿泊施設(ドミトリ一)、食堂等)、及びアウトリーチ施設(シェムリアップ州：展示施設、体験施設等)

【機材】TIMA 施設：座学研修及び実地研修に係る必要機材、オンライン研修に必要な電子機材等

アウトリーチ施設：事務関連機材、展示関連機材等

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

【コンサルティング・サービス】詳細設計、入札補助、調達・施工監理

【ソフトコンポーネント】協力準備調査で確認

② 期待される開発効果：オンライン設備を有する研修室(0室(2020年))が整備されることにより、遠隔地での研修が可能になり、他国の地雷対策技術向上への貢献が期待される。またアウトリーチ施設の国内外の訪問者(約15,000人(2019年))が増加し、カンボジアの内戦からの復興過程や地雷・不発弾対策の歴史に対する理解が世界に広まることで、平和教育に対する貢献が期待される。

③ 計画実施機関/実施体制：CMAC

他機関との連携・役割分担：特になし

④ 運営/維持管理体制：本計画実施後の運営・維持管理はCMACが行う。TIMA及びアウトリーチ施設の財政面を含む施設・機材の運営/維持管理能力の詳細は、協

力準備調査にて確認する。

(2) その他特記事項

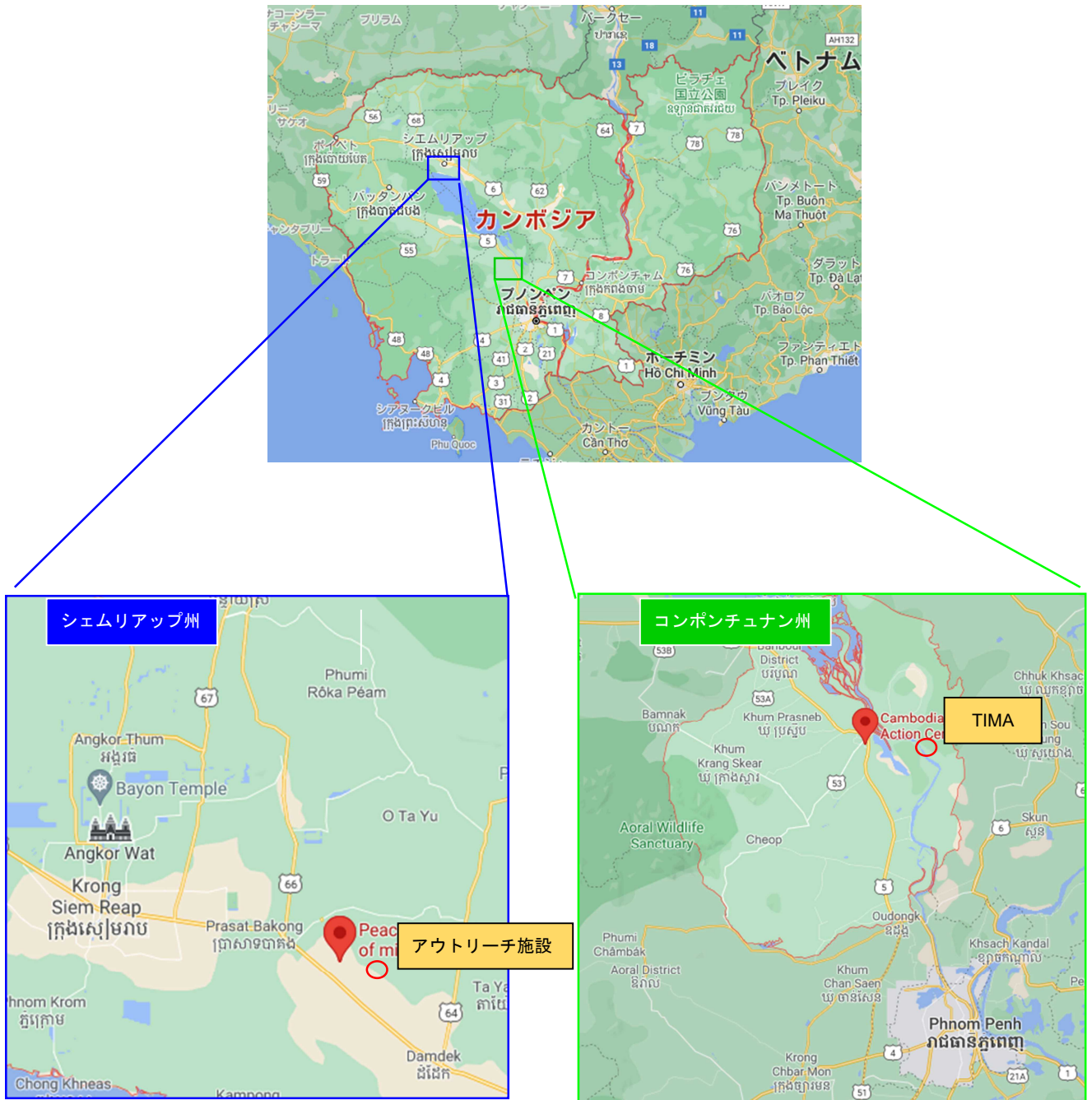
- ・環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ・ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ・他の援助機関の対応：2015年にノルウェーがTIMAの地雷探知犬センター施設の一部の整備を支援しているが、本事業との重複はない。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

対カンボジア無償資金協力「第六次地雷除去活動機材整備計画」(評価年度2010年)の事後評価等では、将来的に独立して維持管理に必要な財源確保ができるかを十分に協議し、必要に応じて財源確保に向けた支援や提案を事業計画に盛り込むことが有効である旨教訓を得ている。本計画では、協力準備調査及び現在実施中の技術協力プロジェクトと連携し実施機関の財政面の能力等も十分考慮の上、案件形成を行う。

以 上

【別添資料】地図



出典 : Google MAP

【別添資料】写真（出典：JICA）



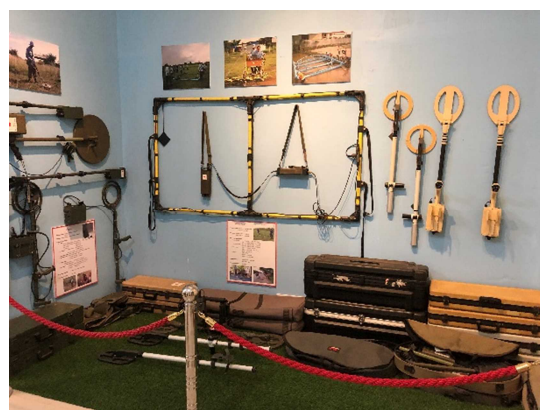
TIMA 研修所 1



TIMA 研修所 2



アウトリーチ施設外観



地雷対策資材の展示



義足の展示